



## 決勝【中堅】

山田 (パナソニック・ES門真) ②メー 宮山 (富士ゼロックス 東京・本社)

試合開始すぐ山田の鋭いコテが宮山の手元をとらえる(写真手前が山田)。その後も力強いひきメンで応援を沸かせた山田。これは一本とはならなかったが、再び同じようなひきメンを放てば今度は見事に有効打突となった。山田の鮮やかな二本勝ちでパナソニックが優勝を引き寄せた

## ◆決勝

| チーム             | 順 | 先 | 次 | 中  | 副 | 大 | 得点 |
|-----------------|---|---|---|----|---|---|----|
| パナソニック (ES門真)   |   | 日 | 吉 | 山  | 笹 | 足 | 2  |
|                 |   | 下 | 村 | 田  | 森 | 達 |    |
|                 |   | コ | ② | ②メ | ② | ② | 4  |
| 富士ゼロックス 東京 (本社) |   | ② | 小 | 太  | 宮 | 新 | 2  |
|                 |   | ② | 室 | 田  | 山 | 野 | 1  |
|                 |   | ② | ② | ②  | ② | ② |    |



先鋒戦、先制を許した日下 (パナソニックES門真) が時間終了直前に見事なコテを決めた(写真)。敗北がほぼ決定していた状況でのこの起死回生の一打でパナソニックが息を吹き返した

道のりは決して平坦なものではなかった。序盤戦のヤマ場とも言えたのは3回戦。ここで関東地区を代表する強豪・三井住友海上(本店)と激突。三井住友海上は過去にこの大会で7回の優勝を誇る伝統チームでもある。

決勝戦の組み合わせであってもおかしくないこの対戦は、パナソニックが次鋒戦を落とす苦しい展開ながらも、中堅戦、大将戦を制しての逆転勝利を遂げた。

ヤマ場を乗り越えたパナソニックだが、その後の6回戦でも強敵が待ち受けていた。昨年の優勝チーム・西日本シティ銀行(本店)である。

九州勢初の連覇を狙う西日本シティ銀行に対して、パナソニックは先鋒、次鋒



## 優勝◆パナソニック(ES門真)

日下達基(25歳)、吉村大地(22歳)、山田侑希(24歳)、笹森雄貴(24歳)、足達翔太(26歳)、久林武蔵(26歳)。監督=酒井順也

大会の頂点に立ったのはパナソニック(ES門真)だった。パナソニックのメンバーは先鋒から、日下達基(25歳)、吉村大地(22歳)、山田侑希(24歳)、笹森雄貴(24歳)、足達翔太(26歳)。同社は平成24年の第55回大会で本社チームが優勝を果たしているが、今回優勝したES門真は同社Bチームにあたる。

今大会でのパナソニックの優勝までの

全国各地から367ものチームが日本武道館に集い、実業団剣道日本一の座を争った。

数多くのチームが参戦し、一日間で優勝を決めることもあり、日本武道館には16もの試合場が設置される。試合時間は1回戦から準々決勝までは3分間、準決勝より4分間」と設定されているものこの大会ならではの。試合場は通常よりもやや狭く、そして試合時間も短いという試合環境は実業団剣道の「難しさ」を象徴している。

見せつけた選手層の厚さ！  
パナソニック(ES門真)が優勝

優勝を決めた直後、喜びに沸くパナソニック(ES門真)の選手たち。大将の足達は男泣き、中堅の山田は最優秀選手に選出された

第59回  
全日本実業団  
剣道大会

平成28年9月19日(月・祝)  
日本武道館  
主催=全日本実業団剣道連盟  
撮影=窪田正仁





### 準々決勝 [副将]

新海 (富士ゼロックス東京・本社) ①— 賀川 (日通商事・本社)

▲前2人が引き分けに終わった後の中堅戦、富士ゼロックス東京の宮山がひきゴテ、そしてコテと奪って二本勝ち。宮山の快勝を受けた新海は試合開始すぐに上段からの諸手ゴテを打ち込み (写真)、この一本を守り切り、日通商事を下す

#### ◆準々決勝

| チーム            | 順  | 先  | 次  | 中  | 副  | 大 | 得点 |
|----------------|----|----|----|----|----|---|----|
| 富士ゼロックス東京 (本社) | 小室 | 太田 | 宮山 | 新海 | 野村 |   | 3  |
|                | ×  | ×  | ③コ | ⑤  |    |   | 4  |
| 日通商事 (本社)      | 金成 | 中野 | 川上 | 賀山 | 山内 |   | 0  |
|                |    |    |    |    |    |   |    |

### 準々決勝 [先鋒]

東郷 (富士ゼロックス・本社) ②— 梅本 (JR東海・本社)



▲東郷は梅本が打ち込んできたところを返し気味にメン。そこから集中を切らすことなくひきメンを放てばこれが見事な一本となった (写真は攻防)。次鋒戦も富士ゼロックス・岡北が先制してこのまま一気に押し切るかに思われたが、JR東海・鈴木が一本取り返して引き分け。さらに中堅戦も奪ってスコアをタイに戻すも、副将戦では富士ゼロックスが勝利。再度JR東海を突き放す

#### ◆準々決勝

| チーム          | 順  | 先  | 次  | 中   | 副  | 大 | 得点 |
|--------------|----|----|----|-----|----|---|----|
| 富士ゼロックス (本社) | 東郷 | 岡北 | 上原 | 北川  | 岩川 |   | 2  |
|              | ②  | ⑤  | ②  | ×   |    |   | 3  |
| JR東海 (本社)    | 梅本 | 鈴木 | 今泉 | 久留宮 | 大川 |   | 2  |
|              |    |    |    |     |    |   | 1  |



### 準々決勝 [中堅]

藤江 (ALSOK・東京) ①— 青木 (NTT東日本・東京)

▲先鋒戦で渡部が勝利し、NTT東日本が幸先良いスタートを切る。しかし、ALSOKはここから力を発揮する。次鋒の小曾納がメンの一本勝ち。中堅の藤江もまた試合開始からすぐに鮮やかなコテを決めた (写真)。副将戦も試合開始からほとんど一本奪ったALSOKがNTT東日本を圧倒する

#### ◆準々決勝

| チーム         | 順  | 先   | 次  | 中  | 副   | 大 | 得点 |
|-------------|----|-----|----|----|-----|---|----|
| ALSOK (東京)  | 篠崎 | 小曾納 | 藤江 | 福田 | 遅野井 |   | 4  |
|             |    | ②   | ③  | ②  | ②ド  |   | 5  |
| NTT東日本 (東京) | ②  | 渡部  | 若松 | 青木 | 竹越  | 岡 | 1  |
|             |    |     |    |    |     |   |    |

### 準々決勝 [中堅]

山田 (パナソニック・ES門真) ②— 福本 (東レ・滋賀)



▲先鋒戦は好調の榎原が二本奪って東レが白星を先制。苦しい立ち上がりを強いられたいパナソニックは次鋒の新人・吉村が勝利。これに続けとばかりに山田も試合開始すぐに力強いメンを奪った (写真)。大将戦も勝利したパナソニックが準決勝へとコマを進めた

#### ◆準々決勝

| チーム           | 順  | 先  | 次  | 中  | 副  | 大  | 得点 |
|---------------|----|----|----|----|----|----|----|
| パナソニック (ES門真) | 日下 | 吉村 | 山田 | 笹森 | 足達 |    | 3  |
|               |    | ②  | ②  | ×  | ③  |    | 3  |
| 東レ (滋賀)       | ③  | 榎原 | 茂田 | 福本 | 三雲 | 藤田 | 2  |
|               |    |    |    |    |    |    | 1  |



### 準決勝 [代表]

野村 (富士ゼロックス東京・本社) コー 北川 (富士ゼロックス・本社)

▲次鋒戦を奪われた関東大会覇者の富士ゼロックスだったが、副将戦で北川がひき逆ドウを奪って追いついた。代表戦へともつれた勝負も北川に託した富士ゼロックス。一方の富士ゼロックス東京からは大将の野村が戦いへと臨む。野村が放ったコテが北川をとらえ (写真)、勝負は開始ほどなく決した

#### ◆準決勝

| チーム            | 順  | 先  | 次  | 中  | 副  | 大  | 得点 |
|----------------|----|----|----|----|----|----|----|
| 富士ゼロックス東京 (本社) | 小室 | 太田 | 宮山 | 新海 | 大野 | 代野 | 1  |
|                | ×  | ③  | ×  | ⑤  | ×  |    | 1  |
| 富士ゼロックス (本社)   | 東郷 | 岡北 | 上原 | 北川 | 岩川 | 北川 | 1  |
|                |    |    |    |    |    |    |    |



### 準決勝 [先鋒]

日下 (パナソニック・ES門真) ①— 篠崎 (ALSOK・東京)

▲篠崎がドウを狙おうと手元を変化させた瞬間、日下がその手元を目標けて竹刀を打ち込んだ (写真)。日下の貴重な1勝を得たパナソニックはポイントゲッターの中堅山田がひきメン、コテと奪って二本勝ち。副将戦をミスなく引き分けに終えて決勝への切符をつかんだ

#### ◆準決勝

| チーム           | 順  | 先   | 次  | 中  | 副   | 大 | 得点 |
|---------------|----|-----|----|----|-----|---|----|
| パナソニック (ES門真) | 日下 | 吉村  | 山田 | 笹森 | 足達  |   | 2  |
|               | ③  | ×   | ②コ | ×  | メ   |   | 2  |
| ALSOK (東京)    | 篠崎 | 小曾納 | 藤江 | 福田 | 遅野井 |   | 1  |
|               |    |     |    |    |     |   |    |

と連勝を飾る幸先良いスタート。その後の副将戦では西日本シティ銀行の反撃にあうも、大将戦を引き分けに抑えたパナソニックがこの好カードを制した。パナソニックが決勝戦で戦ったのは、これが初の決勝進出となる富士ゼロックス東京本社だった。実業団の強豪チームとして名を馳せる富士ゼロックスの販売会社にあたる同社。近年はとくに女子部の活躍が目覚ましかったが、ついに男子部がこの全日本大会で初の上位進出を果たした。富士ゼロックス東京が飛躍を果たす大きなきっかけとなったのがパナソニック (本社) との5回戦だろう。関西を代表する強豪パナソニックAチームとの戦いは

実力伯仲。結果的に両チームの明暗を分けたのは次鋒戦の一本。優勝候補の一角を下した富士ゼロックス東京はここから一気に波に乗った。準決勝では、親会社でもある富士ゼロックス (本社) と激突。同門対決となったこの勝負は代表戦にもつれる接戦となったが、富士ゼロックス東京の大将を務める野村が開始からほどなく鮮やかなコテを決めて勝利をおさめた。パナソニックと富士ゼロックス東京の決勝戦。先鋒戦で小室 (富士ゼロックス東京) がドウを先制するも、対する日下 (パナソニック) が時間終了間際にコテを返してギリギリで引き分けへと持ち込む。先鋒戦の黒星を覚悟していたであろうパナソニック陣営は、この日下の一打によって再びその士気を高めることとなった。

その後の次鋒戦で勝利をおさめたパナソニック。続く中堅戦では奈良県代表として全日本選手権大会への出場経験がある山田が二本を奪い、貴重な2勝目をあげた。追う立場となった富士ゼロックス東京にとっては引き分けの許されない副将戦。上段に構える新海 (富士ゼロックス東京) が奮闘するも、パナソニックの笹森は最後までスキを見せず。副将戦を引き分けた時点でパナソニックの優勝が決まった。パナソニックを率いた酒井順也監督は第55回大会 (平成24年) 以来の優勝に喜びのコメント。

「本社チームが優勝させていただいたのは4年前。それ以降は上位進出すらできませんでした。門真チームは大将の足達が社会人4年目なのですが、彼が最年長の非常に若いチーム。今回試合に臨むにあたって『何があっても怖がらずに攻め続けよう』と選手のことを統一してきたことが勝因かと思います」

決勝戦を終えるや、面金の奥で泣き顔を見せたのは大将の足達。昨年まではAチームのメンバーだった足達だが、今回はBチームへと降格しての出場。足達の取り組みを酒井監督がこう語る。

「Aチームのメンバーとして3年間悔しい戦いを経験してきて、今回はBチームでの出場となりました。それでも腐ることなく後輩たちをまとめあげてくれたことで剣道部全体にとってもいい影響を与えてくれました」

準決勝で富士ゼロックス東京との同門対決に敗れた富士ゼロックス (本社) は今年の関東大会覇者でもある。プレッシャーがかかる中での今回の入賞は地力を示した好結果と評価できるだろう。

同じく大会3位に入賞したALSOK (東京) はかつては大会の上位常連であったが、ベスト4進出の記録となると平成20年にまでさかのぼる。今回の久々の入賞はALSOK復活の狼煙となる。気は早いが来期の関東、そして全日本大会での活躍にぜひ注目したいところだ。



